

さくらほっと NEWS

vol.70 令和8年春号

名市大病院さくらほっとNEWS vol.70 令和8年春号

発行：名古屋市立大学病院 発行責任者：院外広報課編集会議（年4回発行）
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-858-7116（経営課）

一薬剤師と支える小児 AYA がん診療の未来— をテーマに 第3回 名古屋市立大学病院 小児 AYA Cancer Symposium を開催しました！

2026年2月6日（金）に希少疾患である小児 AYA がんの多施設参加型研修会として、シンポジウムを開催しました。今年度も地域医療連携室の協力により、現地とwebのハイブリット開催が実現し、併せて64名に参加いただきました。学内の薬剤部、病棟からの演題に加え、今回は当院と「薬業連携」を担っている地域の調剤薬局からも報告いただきました。特別講演では、JCCG（日本小児がん研究グループ）の薬剤委員長の成育医療研究センター薬剤部 歌野智之先生にご講演いただきました。

小児 AYA 世代の治療経験や、そこからみえてくる課題、国内外の取り組み、未来に向けての研究など幅広く情報共有ができ、有意義な会となりました。今後も小児 AYA がんの患者さまに、より良い医療の提供ができるよう皆様と協力しながら推進して参ります！

【がん医療支援部 運営委員会】



活発な討議が行われました。



地域医療連携室 事務局スタッフ



演者、座長のみなさん



特別講演 歌野智之先生

大学の地域貢献度ランキング 名古屋市立大学が3回連続日本一！

日本経済新聞社が全国の国公私立を対象に実施する「大学の地域貢献度調査」(2025年度)において、本学は2021、2023年度の調査に続き、3回連続で日本一となりました！このランキングは、全国777校の国公私立大学を対象に、大学が地域社会にどのような貢献をしているかを探る「地域貢献度」の調査を行い、その回答(497大学から回答)をもとに順位付けしたものです。

この結果は、本学の教職員の教育研究活動や、日頃より本学をご支援くださる地域の皆さまとの連携活動などが評価されたものです。これからも本学は教育・研究・医療等を通じて、地域への貢献に努めてまいります。



さくらこみち

先進救急災害医学講座・救命救急センター長就任のごあいさつ 2

「さくらこみち」の供用開始 2

名市大病院のチカラ Vol.38 3

名市大 小児AYA Cancer Symposium 4

大学の地域貢献度ランキング 名古屋市立大学が3回連続日本一! 4

救急災害医療センター 2026年6月1日 開棟！！

開棟まであと61日 ※2026.4.1時点



救急災害医療センター外観写真

先進救急災害医学講座・救命救急センター長就任のごあいさつ



名古屋市立大学 先進救急災害医学講座 主任教授
名古屋市立大学病院 救命救急センター長 船越 拓

このたび、名古屋市立大学大学院医学研究科 先進救急災害医学講座を担当するとともに、名古屋市立大学病院 救命救急センター長を拝命いたしました。名古屋市立大学の救急・集中治療ならびに災害医療を支える立場に恵まれ、責任の重さを痛感しております。

名古屋市立大学病院では、本年6月に新たに救急災害医療センターの開棟を予定しております。高度な救急診療機能と災害対応機能を一体的に備えたセンターとして、救急外来、救命救急センター、集中治療、各専門診療科がこれまで以上に密接に連携し、地域の救急・災害医療のハブとしての中心的な役割を果たしていくことを目指しております。救急搬送件数の増加や高齢化、患者ニーズの多様化が進むなかで、限られた資源を有効に活用しながら、重症から中等症まで地域の救急のニーズを適切に集約し、「地域のニーズに常に応えられる救急」を実現できるよう、組織づくりと体制整備を進めてまいります。

地域のみなさまにとって、いざという時に頼れる医療機関となるために地域の病院、診療所、在宅医療、リハビリテーション施設、さらには消防・行政との連携を強化し、長期的な視点に立った救急医療体制を構築していきたいと考えております。

地域のみなさまに「名古屋市立大学病院があっけよかったです」と感じて頂けるように日々進歩してまいりますので、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

「さくらこみち」の供用開始

名古屋市立大学病院では、2026年6月1日の救急災害医療センター開棟に先立ち、3月5日より新たなプロムナード空間「さくらこみち」の供用を開始しました。

「さくらこみち」は、『地域の命を、未来へつなぐ』という救急災害医療センターの基本的な考え方を体現する空間として、患者さん・ご家族・医療者・地域を結ぶ病院の新たな“顔”となります。地下鉄連絡通路から病院を結ぶ主動線として、安全性と快適性を重視し、本学の歴史と、ここちよさ・健康を感じられるデザインを融合しました。

会議室やホール、食堂、コンビニエンスストアなどを備え、日常利用に加え、災害時にも柔軟に活用可能な拠点として機能します。「さくらこみち」は、信頼される医療と未来志向の病院づくりへの第一歩です。



B1階 地下鉄連絡通路



さくらこみち

名市大病院のチカラ Vol.38

循環器内科

構造的な心疾患に対する低侵襲治療に、心房中隔欠損症(ASD)のカテーテル治療が加わりました

名市大病院では、心房中隔欠損症(ASD)に対するカテーテル治療を新たに開始しました。ASDは生まれつき心臓の左右を隔てる壁に穴があく先天性心疾患の一つです。若い頃は症状が乏しい場合もありますが、加齢とともに不整脈や心不全を発症し、動悸や息切れなどの症状が現れ、入院が必要となることもあります。

従来は開心術が主な治療法でしたが、カテーテル治療では胸を切らず、足の付け根から細い管を用いて治療を行うため、身体への負担が少なく、回復が早いことが特長です。

名市大病院循環器内科では、ASDに加え、カテーテルを用いた大動脈弁狭窄症に対する弁置換術(TAVI)、僧帽弁閉鎖不全症に対するクリッ

プ治療、卵円孔開存(PFO)閉鎖術、閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的な中隔心筋焼灼術(PTSMA)、僧帽弁狭窄症に対するバルーン拡張(PTMC)、心房細動に対する左心耳閉鎖術など、幅広い構造的な心疾患(SHD)カテーテル治療を行っています。心臓血管外科や麻酔科と連携したハートチームにより、患者さん一人ひとりの状態に合わせた安全で安心できる治療を提供しています。心臓の病気でお悩みの方は、どうぞお気軽にご相談ください。



看護部

国際連携で未来の看護を切り拓くー韓国・ハルリム大学との交流が始動

名古屋市立大学は2025年5月、韓国・ハルリム大学と看護師国際交流に関する協定を締結し、看護分野での連携を本格的に開始しました。12月には看護部長6名と教員4名がハルリム大学ドンタンソンシン病院およびソンシン病院を訪問し、「医療DX」をテーマに交流イベントを実施しました。シミュレーションセンターやスマート病棟、VR教育、ロボットステーション、病院全体を統括するコマンドセンターなどを見学し、最新のデジタル技術が医療現場にもたらす可能性を実感しました。また、看護師確保や人材育成、働き方改革など、日韓共通の課題について率直な意見交換が行われ、看護の未来をともに考える貴重な機会となりました。他国の医療に触れることは、日本の看護の強みや今後の方向性を見つめ直す契機にもつながりました。

大学が担う国際交流は、教育・研究・臨床の三位一体の強みを活かし、得られた知見を科学的に検証しながら学生教育や地域医療へ還元できる点に特徴があります。今後は、ケアテクノロジーの開発や患者中心の医療モデルの構築に

向け、両大学が連携して取り組みを深化させていきます。名古屋市立大学は、国際的な学術ネットワークを基盤に、未来の看護を切り拓く教育と実践を推進してまいります。



ハルリム大学ソンシン病院にて



コマンドセンターに関するプレゼンテーション